

よきよき食のマナーへの取り組み

寒河江市立南部小学校

庄司 光代

1 はじめに

入学当初、山のような残菜、茶碗を持たない、箸がきちんと持てない実態に愕然。なんとかしなければと、日々頭を悩ませてきた。あまりきつく指導し、給食の時間が楽しくなくなっては…と。そこで、子どもたち同志・栄養士さん・調理師さんとの関わりの中で食事のマナーが少しずつでも向上するように取り組んでいるところである。



2 実践

(1) 残菜「^{ゼロ}0」をめざして

① 自分で食べられるに量を調整

「いただきます」をしてから、教師立ち合いのもと、自分の食べられる量に調整する。多い子どもは減らし、少ない子どもは増やしていく。苦手なものも、1口は食べる。そして少しずつ増やしていく。→ 自分で決めた量は残さないぞ!

② 調理師さんたちの話

給食をいただきに行くとき、調理の方法・量・時間・給食室の温度など給食をつくる大変さを話していただく。→ こんなに大変な思いをしてつくっているんだから残さないぞ!

③ 栄養士さんからの話

定期的に来てくださるので、栄養やマナーについての話をしていただく。

→ こんなに栄養があるんだから残さないで食べるぞ!

(2) 正しく箸を持てるように

① 食べる前に「パチパチ」運動

「いただきます」の前にみんなで10回箸をパチパチさせる。

② 子どもたち同志の教え合い

給食当番以外の子どもたちで、配膳までの間・配膳が終わってから「いただきます」までの間に、きちんと持てる子どもが箸の先生になり、正しい持ち方を教える。

③ 豆つまみ大会練習会

児童会主催の豆つまみ大会がある。そこで、学級活動の時間に練習会とクラスの豆つまみ大会を行う。



3 おわりに

入学当初の山のような残菜が、1学期は残菜「0」が3日。2学期はほぼ毎日「0」である。子どもたちの体力もついてきたからだと思うが、何より心に訴え、少しずつがんばってきた成果であると思う。また、箸も入学当初正しく持てる子どもは25人中4人であったが、現在19人までに増えてきた。持ち方まではできるが、食べづらくてなかなか使えないようである。食に関しては、家庭によるところも大きい。親子給食の際にもおうちの方に栄養士さんから話をいただいているが、さらに連携をとり、食のマナーの向上を図っていきたい。